



道しるべ

道德通信

上尾市立太平中学校
道德通信 第1号
令和7年5月12日(月)
発行者 校長 宮田 純生

中学生として身に付けるもの

校長 宮田 純生

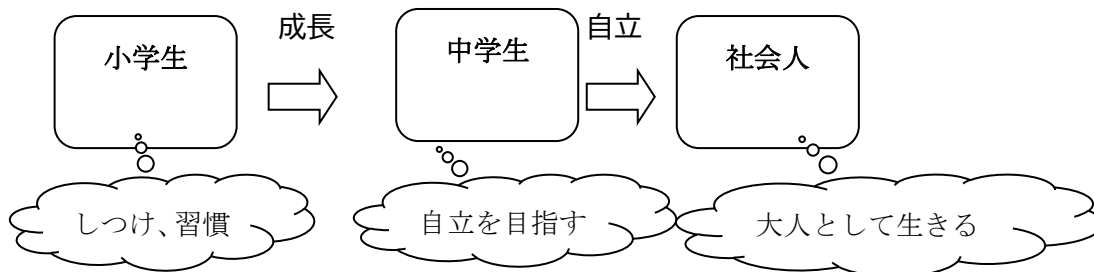
保護者会の際に保護者の皆様に中学生としての子育てという文書を配布しました。今日は道德通信の1回目ということで生徒の皆さんにも考えてほしいと思います。

中学校は、自立をして、社会に旅立つ資質を育てる時期

小学校は、親や先生が手をかけ、生活の基盤をつくることです。(生活習慣)

中学校では社会人として生きていく基礎をつくる時期

自立とは、1人の人間として社会に出ても困らないような状態になることです。



自立とはどんなことでしょうか

自立のために考えたいこと

①自分のことが自分でできる

(学習の用意や持ち物、着るものなどが自分で用意できる)

②自分の状態がわかる

(体調、言動、自分の行動の様子などが自分で判断できる)

③自分で考え行動できる

(善悪を考えた行動ができ、他人に合わせた行動ではなく、自分で考えた行動がとれる)

④自分の目標を立てそれに向かって努力できる

(やらされる行動ではなく、自分で目標を決めて努力できる)

などの行動がとれることが自立ではないでしょうか。

- ・学校からの連絡のプリントを自分で保護者の方に提出していますか。
- ・太平ノート、テストの計画など自分から記入できていますか。
- ・体育着など洗濯物を自分で出していますか。
- ・朝、起こされなくとも自分で起きていますか。
- ・時間を自分で考え行動できますか。(早く〇〇しなさいの声をかけられていない)
- ・身体の具合が悪いとき自分で考え対処ができますか。
- ・学習などを自ら行なうことができますか。
- ・お金などを計画的に使うことができますか。
- ・自分の気持ちや考えを理路整然に落ち着いて話すことができますか。
- ・自分の部屋を自分で掃除することができますか。
- ・将来の希望や希望について具体的に考えていますか。

このような視点で自分を見てみましょう。こんなことができているか、いないかが目安になります。大人は自分のことはすべて自分で行なわなければなりません。そういった視点で自分を見てみましょう。道德の時間は社会人としての考え方や生き方を学習する時間です。1年間の道德の授業を大切に自分を成長させていきましょう。

～ 令和7年度の道徳の授業がスタートしました ～

1学年の道徳の授業では3つの教材を扱いました。「うわさで決めるの？」では、SNS のグループで中傷されていた B さんが実は優しい子だと知った主人公が、グループの仲間と B さんとの間での立ち振る舞いを迷ってしまう場面から、人との接し方について考えました。思いやりをもつことや、直接関わって真実を自分で確かめることの大切さに改めて気づいている人が多く見られました。「仮入部」では、中学校に入学してきて間もない時期に主人公が部活動の選択について悩む内容で、本当の友情について考えを深め、友人との付き合い方を学びました。「掃除の神様が教えてくれたこと」では、ディズニーの清掃部門に配属された主人公が、「掃除の神様」と呼ばれるチャック氏の仕事ぶりを見て、清掃員の仕事に誇りをもって取り組もうと気持ちに変化していく姿から「働くということ」について考えを深めました。「望んでいなかった役割でも、全力でやった先に自分の成長がある」という意見や、「嫌なことも頑張ってやれば自分の誇れることになる」という意見がありました。道徳で考えたことを学校生活でも生かしていけるといいですね。



2年生の道徳授業では、3つの教材を扱いました。「旗」では、事故に遭い自宅療養中の少女を見舞ったクラスの人々が、少女の孤独や寂しさを知りクラス全員で旗を作り、少女を励まそうとする内容で、他者の立場を尊重しながら親切にし、いたわり励ます生き方のすばらしさに気づき、互いに他を思いやる心情の大切さを学びました。「思いやりのある行動をしよう」と思っても、行動する勇気がわからないことがあるので、勇気を少しずつ出せるようにしたい。」など本当の思いやりとは何かを見つめ直す意見が多く見られました。「鳥のように空を飛びたい」では、高梨沙羅選手が「誰よりも遠くまで飛びたい。」という夢を実現するために努力を重ねる上で、規則正しい生活習慣が大切だと考えました。「ごみ収集場所をどこに」では、収集場所をどこにするかについて町内会である主人公の祖父が思い悩む内容で、きまりを積極的に守ろうという判断力が大切だという意見がありました。感想で終わらずに、行動で表せるようにしましょう。



3年生の道徳の授業開きは、『思い出のオムライス』という教材を扱いました。この話は、主人公のかしこさんが幼いときに母に嘘をついて学校を休み、普段食べることのできなかった食堂のオムライスを注文してもらうというものです。母は、仮病を使って嘘をついた娘に「うそつきは神様は許しても母ちゃんは許さん。」と怒鳴りつけます。幼かった彼女はその時、母の言葉の本当の意味が分かりませんでした。時が経ち、大人になったかしこは当時の母の言葉を回想します。授業では、かしこが大人になって感じた母の言葉の本当の意味について話し合いました。発表では、「自分の心に負けないで。」「誰かを傷つける嘘はダメ。」「自分のためだけの嘘はつかない。」「簡単に人を騙して自分だけ楽しむのは良くない。」「頑張っている人の気持ちを壊すな。」「人の思いを裏切るな。」など、多くの意見が出ました。積極的に意見を発表する生徒が多く、活気ある授業となりました。



にじいろ学級の第1回目の道徳授業では「規則の尊重」について考えました。

様々なシチュエーションにおいて、「まっ、いいか」で本当にいいのだろうか？ なぜ、「約束」や「きまり」があるのだろうか、なぜ守らないといけないのだろうか、などを話し合いました。

「みんなもやっているから、まっいいか。」「楽しそうだから、まっいいか。」など中学校生活の中でも起こりうることにについて「自分」の意見を出し合いました。それぞれが「自分」のことだけでなく、「相手」がいること、見えないところで誰かのために時間を割いてくれている「誰か」に気づき、意見を発表してくれました。素晴らしいです！ ぜひ、その気づきを今後の生活の中で常に心と頭の片隅に置いて行動してほしいな、と思います。

その授業の延長として、新学期に入ってみなさんがよく耳にした「太平中生としてふさわしい行動をしましょう」とはどういうことかについても意見交換をしました。それぞれが考えを発表し、まとめ、にじいろ学級として17個のチェックポイントを作りました。これから始まる今年度の道徳の授業の中で、全員が自分の心と対話し、相手と対話し、様々な意見を受け止めながら大きく成長し、自分たちが考える「太平中生としてふさわしい行動」が当たり前にできる学級を自分達で作り上げていってほしいな、と期待しています。

